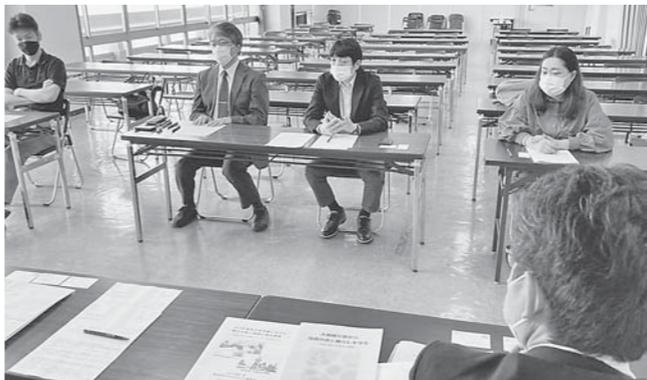


新型コロナの感染拡大 住民の安心・安全に必要な職員体制を

大阪自治労連は、5月27日に富田林市と「新型コロナウイルス感染拡大から住民の命と暮らしを守る要望書」についての懇談を行いました。



コロナ禍での対応などを細かく話し合う

前例のない感染拡大で 通常業務と並行しての対応

市の公衆衛生担当者からは、「新型コロナの感染拡大の際には、保健所への問い合わせが殺到し、対応しきれなくなり、自治体への問い合わせが激増した。通常の業務を進めながらの対応に加え、正体のわからないウイルスに対応するのは大変だった。相談窓口を開設したが、当初は内線が接続されず、各課との連携が難しい状態だった」と大変さが語られました。

ワクチン接種については、富田林には接種に必要な広い面積を確保できる場所がないため、PL教団の広い体育館を提供してもらうことで、3000人規模の接種が



富田林市からの回答書を受け取る有田委員長（右）

可能となり、多くの市民の安全を確保できたとのことでした。

保健所減で自治体の負担増大 「採用人数は増やしている」

また、保健所が大阪府全体で減ったことで、自治体への負担も大きくなり、働く職員の体調管理など自治体としてどう取り組んでいるのかについては、「保健師や専門職を増やすことには難しさがある」としながらも「職員の採用人数は増やしている」と対策を考

えていることがわかりました。
PCR検査—安心・安全には「大阪府で取り組んでほしい」
PCR検査については「市町村で取り組んでも、仕事で市外に出ていく市民が多いため、安心・安全のためには、大阪府で取り組んでほしい」と率直な意見が出されました。
非常時・災害時に
対応できる職員体制の構築を話し合う

また、以前にも新型インフルエンザやSARSなどの感染症が定期的に発生していることに触れ、日常の業務が逼迫している状況で、自治体の体制が非常時に対応しきれぬ不安な中、災害時にも対応できる職員体制をどのように作っていくのかなどを話し合いました。
大阪自治労連は、今後も自治体との懇談を続ける予定です。

5・22緊急シンポジウム

今こそ、国連憲章と 憲法を生かした平和外交を

国連憲章（2条4項）

すべての加盟国は、その国際関係において、武力による威嚇又は武力の行使を、いかなる国の領土保全又は政治的独立に対するものも、また、国際連合の目的と両立しない他のいかなる方法によるものも慎まなければならない。



「安全保障は平和の達成に必要」と話す樋川和子さん

5月22日、上六の教育会館で開催された緊急シンポジウムは「平和」の意味を深く考える場となりました。大阪革新懇と大阪平和委員会が共催。パネリストには木戸衛一さん（大阪大学大学院教授）、樋川和子さん（大阪女学院大学教授・元外務省職員）、川田忠明さん（日本平和委員会常任理事）が登壇し、コーディネーターは桜田照雄さん（阪南大学教授）を務めました。

ロシアによるウクライナ侵略が続く中、世界中で反戦と平和を求める声が増えています。こうした中で、悲惨な戦争の反省から生まれた日本国憲法や、その精神が謳われた国連憲章の立場に立った平和外交が、日本をはじめ世界各国に求められる重要性が語られました。



ストリートに思いを書いた横断幕

大阪のカジノ計画 住民不在で問題山積み

地盤改良に790億円もの公費を投入
今後も巨額の住民負担が
大阪府・大阪市は4月27日、多くの反対を押し切りカジノIR整備計画の申請を行いました。大阪は最も大きな問題を抱えています。カジノ事業者から、人工島・夢洲に液状化の危険があると指摘され、大阪府は地盤の改良費などとして約790億円の支出を決めました。松井市長は「市民負担は生じない」と言ってきましたが、その前提は大きく崩れました。今後さらに、地盤沈下対策費など、巨額の住民負担が危惧されています。
毎年28万人ものギャンブル依存症が!? 引き続き
「ストップカジノ」の声あげよう

長引くコロナ禍で計画の前提が崩れています。カジノはIRの面積の3%ですが、収益の8割を担っています。カジノの儲けの多くは大阪や近畿圏の住民からです。さらに、ギャンブル依存症は全体の約2%とされ、1400万人で計算すれば、毎年28万人の患者を増やすこととなります。今、住民投票の実施を求める運動の拡がりや、ずさんな計画への批判も高まっています。引き続き「カジノ計画ストップ」の声を大きくあげていこうではありませんか。

今月のキーワード

ギャンブル依存症

1970年代後半にWHOにおいて「病的賭博」という名称で、正式に病気として認められました。症状は「興奮を求めて掛け金が増えていく」「ギャンブルをしないと落ち着かない」「ギャンブルのことで嘘をついたり、借金したりする」などです。人は誰でもギャンブル依存症になりえます。リスク因子としてギャンブルが身近にあるなど、環境要因が指摘されています。

今月のキーワード

感染症

環境中—大気・水・土壌・動物（人も含む）—に存在する病原性の微生物が、人の体内に侵入することで引き起こす疾患です。私たちの身の回りには、常に目に見えない多くの微生物—細菌・ウイルス・真菌（カビ・酵母等）—が存在しています。その中で、感染症を引き起こす微生物を病原体といいます。また、回虫やギョウ虫のような寄生虫によって起こる寄生虫症も感染症のひとつです。